

多施設共同前向き急性膵炎研究における急性発症自己免疫性膵炎の評価

研究分担者 岩崎栄典 慶應大学医学部消化器内科

研究要旨

全国急性膵炎レジストリー研究 (SANADAstudy) の運用をおこない、急性発症の AIP 症例の情報を収集することを目的とする。

A. 研究目的

自己免疫性膵炎の急性発症症例は稀であることが報告されている。われわれは 2017 年より急性膵炎の前向き多施設コホート研究 (SANADA study) を開始している。本邦では重症膵炎を対象とした横断的な全国調査と、他施設後向き解析がおこなわれてきたが、軽症膵炎を含めた全膵炎症例を高いクオリティで前向きにデータを収集しその予後を評価する all Japan の研究を企画立案し運用している。このデータベースの作成運用とともに、本コホート内での急性発症自己免疫性膵炎の特徴を検討したい。

B. 研究方法

本研究は前向き他施設コホート研究のサブ研究である。研究組入期間は 2017 年 1 月から 2021 年 12 月の 5 年間で予定し、予定症例数は 2000 例 (軽症 1500 例、重症 500 例) とし、全国のハイボリュームセンター 51 施設に参加いただき現在登録が進んでいる。現在本研究は中間解析を取りまとめている。(倫理面への配慮) UMIN000025468, 倫理審査番号 20160254。

C. 研究結果

2019 年膵臓学会にて SANADAstudy の中間報告をおこなった。2019 年 1 月の時点で登録者 716 例中、AIP 症例は 4 例であった。データクリーニング中であり詳細は開示できないが 716 名の APACHE II スコアの平

均は 7.8 ± 4.6 、重症膵炎は 32.8% であった。

成因別ではアルコール 31.3%、胆石 21.6%、特発性 21.0%、ERCP 後 8.2% であり、入院中死亡率は 3.8% であった。現在 1000 例を超え、中間解析データのクリーニング中であり、2020 年秋には中間報告データを持って論文報告を考えている。D. 考察

本コホート研究において、急性発症の膵炎は稀であることがわかった。中間解析および最終解析において急性発症の自己免疫性膵炎の治療経過、臨床経過についてまとめたい。またサブ解析として研究グループ内で詳細な検討が必要と考えている。

E. 結論

急性発症の自己免疫性膵炎の急性膵炎に占める割合は少ない。現時点ではデータは不十分であり、今後さらなる評価が必要である。

F. 健康危険情報

なし (分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表 未発表
2. 学会発表

岩崎栄典他 膵炎調査研究-急性膵炎調査研究分科会報告 急性膵炎症例前向き多施設コホート進捗状況 2019 年 7 月 12 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし